

MIYU's Best Collection

1. Prologue

私は、4月から働く生花店で昨年インターンシップを実施し、現在アルバイトとしてお世話になっている。その中で、ブーケやディスプレイを見させていただいた際に、作品の技術の高さと細部にまでこだわったデザインに圧倒された。私も、人を感動させることができるような作品を自分の手で作り上げたいと強く感じたため、それぞれ作品にテーマを決めイメージを形にする制作技術向上を目指し、“MIYU's Best Collection”と題して卒業制作に取り組んだ。

2. The Works



3. Epilogue

個々のテーマに沿ったブーケを制作する上で、最初は花材選びや色合いが思い通りにいかず、イメージ通りの作品を作り上げることができなかった。また、納得のいくブーケを制作するにあたって何度も組み直してしまったり、ラッピングの細かな部分で苦戦してしまったりと、自分自身の技術や知識不足を痛感する場面も多く感じられた。しかし、個々のテーマに基づいてそれに相応しい花材やラッピングペーパー・リボンなどを選び抜く力はしっかりと身に付き、多くのことを学ぶことができたという実感した。

加茂総合庁舎で飾らせていただいたディスプレイは、自分にとって初めての経験だったため、何から始めたらよいか分からずにいたが、立体的に見せる技術や、限られたスペースの中でより大きく感じさせる技術など、基本の知識から応用の技術まで多くのことを学ぶことができた。この学びを活かし、他にも色々な生け込みを自分の手で制作してみたいと思った。

この卒業制作では10作品を制作したが、予算を5,000円から7,000円に引き上げるなど、最初の予算では自分が思い描いているブーケが制作できなかった。しかし、実際に生花店で売るときには、お客様から指定された予算を必ず守り制作しなければならない。そのためには、単価が安い花材を多く使用し、少しでもボリュームを出して制作することが重要であると痛感した。

実際に商品として販売することを想定し、作品だけでなくネーミングや写真の撮り方にもこだわった。最大限の魅力を伝えるべく、朝の光が降り注ぐ時間帯を狙って撮影したり、個々の作品に応じて撮影場所を変えたりした。また、撮影する僅かな角度の差で作品の印象が変わってしまうため、最後までこだわり抜くことが重要なのだと改めて実感した。

この卒業制作で学んだことを、4月から始まる花屋での仕事に活かしていきたい。